

土木費

〔質疑〕水芭蕉の森木道改修事業については、530メートルの改修であり、令和4年度は83メートルを予定しているとのことだが、単純に計算すると、完了までに6、7年かかるということになる。来園者のためにも早期に整備できないものか伺う。

〔答弁〕木道は雪が多く、朽ち果てることもあり、平成3年4月の開園から現在に至るまで、何回か大規模改修を行なっている。

平成25年に指針が変わり、プラスチック製の擬木による改修も可能となったことから、今回、県の市町村総合補助金を活用し、事業を行つものである。

補助金の限度額が決まっているため、期間を短縮すると、単費となる状況も出てくるが、期間短縮を図ることができるかどうかが、今後検討していきたい。

特別委員会中間報告

定例会初日（6月3日）、スマートインターチェンジ設置推進特別委員会および議員定数・報酬検討特別委員会の中間報告が、各委員長よりなされました。報告の概要については、次のとおりです。

スマートインターチェンジ設置推進特別委員会中間報告

委員長 四電 英夫

副委員長 大森 貴之

委員 伊藤勝美・平間知一

保科善郎・佐久間儀郎

菊地忠久・松野久郎

令和4年5月30日、（仮称）白石中央スマートインターチェンジ整備および周辺整備について、関係部課長から説明を受け、今後の進め方について協議を行なった。

（仮称）白石中央スマートインターチェンジ設計概要については、スマートインターチェンジの整備により通行できなくなる市道の代替として、国道4号に接続する新たなアクセス道路の検討を行なっ

ていること、（仮称）道の駅しろいし基本計画（案）を作成中であるとの報告があった。

説明後、多数の質疑応答があり、今後、白石駅および白石蔵王駅へのアクセス道路の検討を行うこと、（仮称）白石中央工業団地線において、無電柱化の検討を進めていくこと、最終的なスマートインターチェンジの開通は、令和7年度を目標として事業を進めていることなどを把握することができた。

調査や設計、工事等が着々と進んでいるものとの共通認識を持ち、スマートインターチェンジの早期完成と周辺整備のさらなる充実を目指し、今後も地元住民、関係機関との調整を行なっていく。

議員定数・報酬検討特別委員会中間報告

委員長 松野 久郎

副委員長 伊藤 勝美

委員 高子秀明・高橋純斎

保科善郎・佐久間儀郎

角張一郎・菊地忠久

令和2年12月に議員定数・報酬検討特別委員会が設置され、委員会において調査研究を行なってきた。

これまでの調査活動の経過としては、本市の人口規模や財政状況を基に、全国の市町村議会の議員定数および報酬に関する調査として、白石市を含む県内市議会の状況および人口、面積、財政規模が本市に類似する全国の市町村議会の議員定数や常任委員会の運営状況、地域単位の一部事務組合等、近隣自治体との関係からの視点等、多方面から調査研究を行なった。

本特別委員会における議員定数の在り方については、定数を減らすべきとの意見

が50%、議論検討が必要との意見が25%、現状維持とすべきとの意見が25%となっていた。

議員報酬の在り方については、現状維持とすべきとの意見が50%、議論検討が必要との意見が50%で、増やすべきとの意見はなかった。

今後のスケジュールとしては、本特別委員会での議論を継続しながら、市民へのパブリックコメント等を実施し、その後、全員協議会での報告、再検証を行い、議員提出議案として令和4年12月定例会に上程する予定である。

